

NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト

第 9 期 令和 2 (2020) 年度活動事業報告



福島県福島市飯坂町字一本松 11-7

ごあいさつ



理事長 佐原 真紀

平素より、弊法人の運営にあたりましては、格別のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は、東京電力福島第一原子力発電所事故から、丸 10 年を迎える年となりました。そして、弊法人も団体発足から 10 年、法人化してからの活動期間も 9 年になります。ここに第 9 期の事業報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当たり前にできていたことが、当たり前ではなくなった原発事故後の福島。

そして当たり前にできていたことを止められ、自粛を促され、思うように動けない我慢だらけの 令和 2（2020）年以降の今の日本。 10 年前の原発事故を彷彿とさせるコロナ禍のなかで、昨年は初心を振り返る機会となりました。

平成 23（2011）年に活動を開始した私たちは、市民がその時々で持つ放射能への不安に対し、選択ができるような判断材料を提供しようと活動を続けてきましたが、ここまで続けてくることができたのも、皆さまからのご支援があってこそだと思っております。

セシウム 137 の半減期は 30 年かかるということから、30 年は子どもたちの未来を見守っていきたい。

そんな想いからの「ふくしま 30 年プロジェクト」の活動は、今後も続いてまいります。

まだまだ長いみちのり、皆さまと共に歩んでまいりたいと思っております。

今後とも、認定 NPO 法人 ふくしま 30 年プロジェクトの活動にご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和 3 年 5 月

活動報告

●食品・環境放射能測定

食品・環境放射能測定については、トータル測定数が475件となり、令和元年度と比較すると140件増となりました【表1】。測定数が伸びたのは、「タケノコ・コシアブラ測定」「野生キノコ測定」「伊達市土壌測定」といった複数の測定プロジェクトを進めたことによりです。そして、測定検体の傾向としては、食品が全体の58.5%と3分の2近くを占め、残り3分の1のうち、環境が4%、土壌が37.5%といった割合です【表2・同グラフ】。

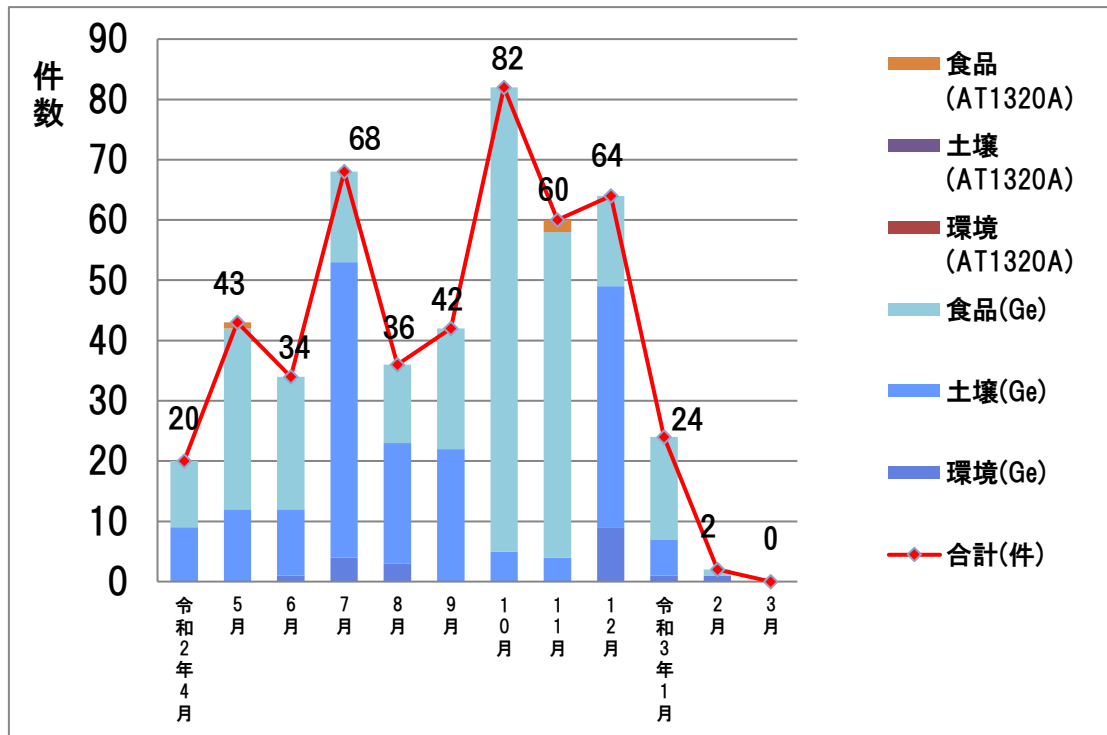
【表1】平成25年度以降の年度別測定件数

平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	平成31年・ 令和元年度	令和2年度
794	591	661	752	611	335	324	475

【表2】令和2年度食品・環境試料測定件数

	環境(Ge)	土壌(Ge)	食品(Ge)	環境 (AT1320A)	土壌 (AT1320A)	食品 (AT1320A)	合計(件)
令和2年4月	0	9	11	0	0	0	20
5月	0	12	30	0	0	1	43
6月	1	11	22	0	0	0	34
7月	4	49	15	0	0	0	68
8月	3	20	13	0	0	0	36
9月	0	22	20	0	0	0	42
10月	0	5	77	0	0	0	82
11月	0	4	54	0	0	2	60
12月	9	40	15	0	0	0	64
令和3年1月	1	6	17	0	0	0	24
2月	1	0	1	0	0	0	2
3月	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度 計	19	178	275	0	0	3	475
令和元年度 計	45	74	201	1	0	3	324

【同グラフ】令和２年度食品・環境試料測定件数



★「タケノコ・コシアブラ測定」「野生キノコ測定」

「タケノコ・コシアブラ測定」「野生キノコ測定」は、主にネットのオークションサイトやフリマサイトで販売している食品を購入し測定したものです。政府からは東日本 16 県の自治体に山菜や野生キノコについて出荷制限が出されており、特にコシアブラやコウタケ等の放射性セシウムの移行率が高い品目については、福島県内のほとんどの自治体で出荷制限が出されています。また、各自治体では自家消費農産物の持ち込み測定と結果の公表も行っていて、これら山菜等から検出される放射性セシウムの傾向を把握することができます。

しかし、県外の 15 県については行政の調査不足や、県内自治体ほどの持ち込み測定の体制が整っていない事情もあり、山菜等についての詳細な汚染や地域が分かっていません。そのようななかで、ネット上では山菜等の売買が頻繁に行われていることに気がきました。これらネット上で売買される食品を購入すれば、県外の山菜や野生キノコの汚染状況の調査が行えると判断し各品目の測定プロジェクトを行いました。

「タケノコ・コシアブラ測定」

4月から6月にかけて行った「タケノコ・コシアブラ測定」では、タケノコ 34 件、コシアブラ 23 件の測定を行いました。タケノコについては食品基準値 1kg 当たり 100 ベクレルを超過するものではありませんでしたが、コシアブラについては6件の超過があり、随時福島市保健所に通報し対応を求めました。また、問題を広く社会に伝えるため、新聞等のメディアに情報提供を行いました【表 3】。

【表 3】コシアブラについての関連報道

6月1日	東京新聞	こちら特報部「汚染実態わい小化 懸念」ーコシアブラ
6月1日	東京新聞	ヤフオク、メルカリなどで放射性セシウム基準値超えの山菜出回る
6月3日	河北新報	基準超山菜 ネットに 福島市、自主回収指導 市在住者が出品
6月4日	福島民報	基準値超え山菜 回収指導 福島市保健所 福島市の出品者に
6月4日	福島民友	250 ベクレルのコシアブラ フリマアプリ出品 米沢産、福島市民が取引
6月24日	毎日新聞 (共同通信)	基準値超え山菜 売買 福島の NPO 調査 ネットに出品 県外の制限地域で採取か
6月29日	東京新聞	山菜の基準値超えの続報！ 「身近なところで検査機会を」 「地元住民まさか・・・」
7月6日	月刊政経東北	ネット通販で出回った汚染コシアブラ ワラビはあく抜きすれば不検出
7月6・7日	文化放送	ラジオ番組『アーサービナード午後の三枚おろし』で、山菜基準値超えについて紹介
7月10日	朝日新聞	コシアブラ 基準値超え 東日本の山菜 放射性物質検出 ネット上 個人間取引
7月21日	N スタふくしま (テレビユー福島)	基準値を超える放射性物質を含む山菜がなぜインターネット上で取引されていたのか

「野生キノコ測定」

「野生キノコ測定」については9月から12月にかけて106件の測定を行い、そのうち基準値超となったのは25件でした。もっとも高い数値を検出したのは宮城県気仙沼市産のコウタケで、1kg 当たり 1830 ベクレル と基準値の 18 倍の値になり、この事例では福島市保健所へ通報後に宮城県の調査でも基準値超となったことで、同県から出荷自粛要請が出ました。

そして、春の「タケノコ・コシアブラ測定」を含めて、ふくしま 30 年プロジェクトが

ら福島市保健所へ5件の通報(10月12日時点)をしたことで、厚生労働省は10月19日付で「オークションサイト・フリマサイトにおける野生の農産物の販売について」をサイトに掲載しました。これまでは店頭での販売については出荷制限の食品販売について警告が出されていましたが、オークション・フリマサイトの運営会社やユーザーに対しても注意が促されました。行政が見落としていたネット上の個人売買に対して、弊法人が調査を行い基準値超を保健所に通報することで監督官庁の厚労省を動かすことができました。

また、野生キノコでも新聞等のメディアに情報提供を行いました【表4】。

オークションサイト・フリマサイトにおける野生の農産物の販売について

オークション・フリマサイトで野生の農産物を販売される皆様へ　～まずはこちらを！

オークションサイト・フリマサイトで野生の農産物を販売される皆様に対して、放射性物質に関連する注意事項を知っていただき、理解を深めるための概要リーフレットを作成しました。

オークションサイト・フリマサイトで野生の農産物を販売される皆様へ

ご注意ください！

野生の農産物（山菜、きのこ等）については、産出地域ごとに出荷が制限されているものがあります。
販売にあたっては産出地域を慎重に確認し、**出荷制限の対象地域で産出されたものでないこと**を最新の情報で確認してください。

出荷制限の対象食品、対象地域は以下URL「出荷制限・摂取制限」項にある「現在の出荷制限・摂取制限の指示の一覧」から一覧ファイルをPDF形式で確認することができます。
また、出荷制限は検査データに基づき随時追加・解除され、一覧ファイルも都度更新しています。
野生の農産物を販売する際は、最新の「一覧ファイル」をご確認ください。
https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html#出荷制限・摂取制限

出荷制限の対象地域以外で産出された食品であっても、放射性物質の基準値（100 bq/kg）を超過するものの販売は食品衛生法違反となります。
取引終了後、各自治体の保健所等から調査への協力依頼があった場合には、積極的に協力するようお願いします。

保健所の調査の結果、新たに出荷制限を行うことがあります。食品の安全性確保の観点から、ご協力をお願いいたします。

食品中の放射性物質に関する詳しい情報はこちら

食品中の放射性物質に関する詳しい情報（厚生労働省の取組）は、以下のURLで確認いただけます。
https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html

問い合わせ先
厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課（電話：03-3595-2337）

Ministry of Health, Labour and Welfare

オークションサイト・フリマサイトで野生の農産物を販売される皆様へ（PDF形式）

厚生労働省 食品監視安全課（2020）

オークションサイト・フリマサイトにおける野生の農産物の販売について（2020年10月）

【表4】野性キノコについての関連報道

10月20日	朝日新聞	放射性物質、野生キノコも基準超 ネット個人取引制限へ
10月27日	河北新報	セシウム基準値超すキノコや山菜、ネットで流通 厚労省が対策本格化
11月4日	Nスタふくしま (テレビユー福島)	フリマアプリで基準値超えキノコを販売
11月5日	月刊政経東北	今度は「汚染キノコ」がネット通販に出回る

★「伊達市測定プロジェクト」

令和元年度から開始した、伊達市内の空間放射線量と土壌測定を行なう「伊達市測定プロジェクト」を進めました。土壌測定については131件行い、前年度を含めた全測定数は135件になりました。目標としていた測定数の100件を上回りましたが、当初想定していたほどの依頼者の広がりを得ることはできませんでした。

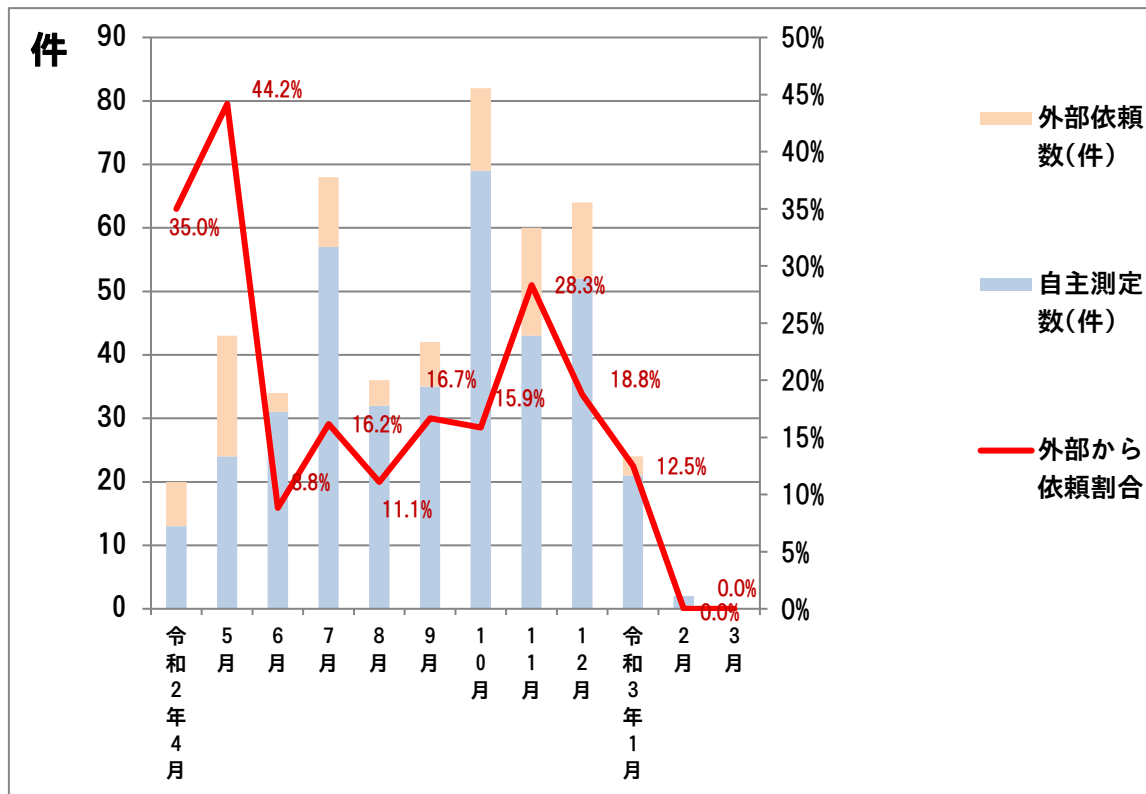
最後に、2月13日の福島県沖地震でゲルマニウム半導体検出器の遮蔽用鉛がズレたことにより、検出器のロッド部分を圧迫し凹みを作りました。その修理にともなって、2月以降の測定が滞りました。

「伊達市測定プロジェクト」は「『5』のつく日。JCBで復興支援」の寄附金を活用させていただきました。

【表5】外部からの依頼件数

	全測定数(件)	外部依頼数(件)	外部から依頼割合	備考(主な依頼者)
令和2年4月	20	7	35.0%	「賛助会員」
5月	43	19	44.2%	「賛助会員」
6月	34	3	8.8%	「賛助会員」
7月	68	11	16.2%	「食品会社」「賛助会員」
8月	36	4	11.1%	「賛助会員」
9月	42	7	16.7%	「食品会社」「賛助会員」
10月	82	13	15.9%	「食品会社」「賛助会員」
11月	60	17	28.3%	「食品会社」「賛助会員」
12月	64	12	18.8%	「賛助会員」
令和3年1月	24	3	12.5%	
2月	2	0	0.0%	
3月	0	0	0.0%	
合計	475	96	20.2%	

【同グラフ】 外部からの依頼件数



●ホールボディーカウンタ(WBC)測定事業

ホールボディーカウンタ測定については、令和2度も農業者団体の測定を中心に行いました。

1. 令和2年度のWBC測定実績

令和2年度の測定総数は、12名となっています。全員が定期的に測定している農業者の方々と、年齢的には50代以上の方がほとんどを占めています。セシウム137が検出された方はいませんでした【表6】。

【表6】

年月	WBC事業内容
令和2年11月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第14回WBC測定

2. WBC 校正およびファントム・線源貸出事業

WBC のバックグランド校正および貸出等を下記のとおり 2 回行いました【表 7】。

【表 7】

年月	依頼先	作業内容
令和 2 年 10 月	NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト	WBC BG 校正
令和 2 年 11 月～12 月	那須町保健センター	WBC BG 校正

●ふくしまくらす交流会

ふくしまくらす交流会は Zoom ミーティングを活用して、山田真医師の講演会を開催しました【表 8】。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大から、在京スタッフが山田真医師をサポートして、初めてのオンライン講演会を行いました。自宅から参加ができるオンライン講演会ということと、新型コロナウイルス感染症をテーマにしたことで、久々のふくしまくらす交流会でしたが参加者が二桁になりました。

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みると、今後もオンラインでの開催をメインに考えていくことになると思われます。

【表 8】

日にち	会場	内容	参加人数	備考
令和 2 年 10 月 25 日	オンライン	「コロナ時代を生きるための考え方」 新型コロナについて わかっていること。 わかっていないこと。 放射能問題との共通点。	12 名	講師: 山田真医師

●勉強会

勉強会の開催は無しという結果になりました。事業計画では開催を計画していたのですが、測定事業と記録誌事業の作業量の多さから、勉強会の企画運営は難しく見送りました。

●福島県内の状況を伝える、研修・交流会

福島県内の状況を伝える、研修・交流会の開催は無しという結果になりました。勉強会事業と同様の理由により開催を見送りました。

●ホットスポットファインダー測定(空間線量マップ化)事業

令和2年度は、ホットスポットファインダー測定を15件行ないました。

【表9】【図10】

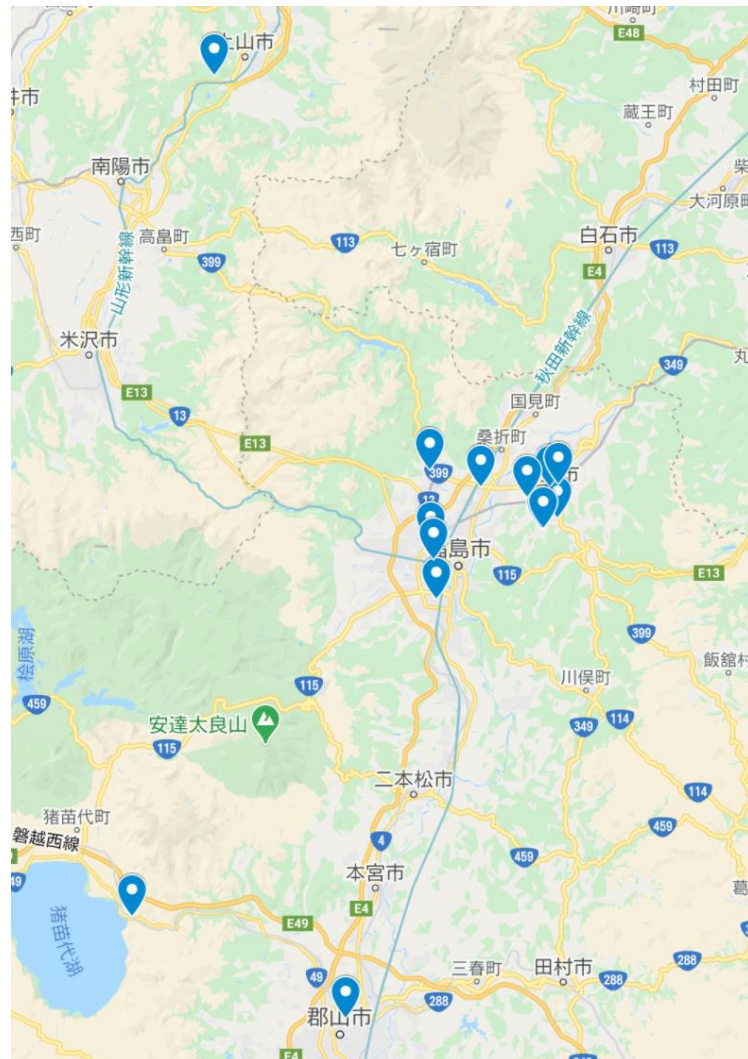
伊達市測定プロジェクトでは、食品・環境放射能測定でも述べたように空間線量と土壌の測定を行い、主だった箇所は伊達市保原町内と紅屋峠千本桜森林公園になりました。

特に紅屋峠千本桜森林公園は、地元住民が20年前から植栽を始めて、地域の子どもの誕生や入学などを記念して植樹し草刈りなどの管理を行ってきました。現在は、伊達市を代表する桜の名所となっています。そして、市が管理する公園ではないので、除染は駐車場や隣接する小学校脇の道路など一部しか行われていませんでした。公園内は広く、坂も多いため空間線量の測定だけで2日間を要しました。空間線量については、1mの高さで0.06~0.52 μ Sv/hありました。

【表9】ホットスポットファインダー依頼先分類

分類	測定件数
住民・保護者	12件
支援団体	2件
その他	1件
合計	15件

【図 10】ホットスポットファインダー測定場所



「伊達市測定プロジェクト」は「『5』のつく日。JCB で復興支援」の助成金を活用させていただきました。

● みんなのデータサイト（市民放射能測定データサイト）

<https://minnanods.net/>

参加測定室 全国 28 の放射能測定室

食品・環境データ数 19,333 件（弊法人登録データ数 4,048 件）

令和 3 年 3 月 31 日現在

土壌データ数 3,445 件（弊法人登録データ数 357 件） 令和 3 年 3 月 31 日現在

高濃度土壌データ数 107 件（弊法人登録データ数 0 件） 令和 3 年 3 月 31 日現在

弊法人は、市民による放射能測定のデータの共有や連携を目指して立ち上げた『みんなのデータサイト』に、幹事団体の一つとして参加しています。

令和 2 年度は、食品・環境放射能測定で述べた「野生キノコ測定」をみんなのデータサイトでも進め、「全国キノコ測定プロジェクト 2020」として行いました。弊法人を含めた 6 測定室が参加して、放射性セシウムによる野生キノコの汚染実態を広範囲に調査しました。

また、1 月 21 日、自民党東日本大震災復興加速化本部内に食品基準値による出荷制限の在り方を検討するプロジェクトチームが発足したことが福島民報、民友で報じられました。それによると、同プロジェクトチームは現在の食品基準値（100 Bq/kg）が風評被害を招いているという論旨で、基準値緩和を狙っているということでした。急いで反論する場を設定しなければならないということで、2 月 27 日にオンラインイベントを開催しました。

オンラインイベントでは、趣旨に賛同してくれた木村真三准教授が基調講演を行い、みんなのデータサイトからはキノコの調査内容の一部の発表や出荷制限体制の不備を解説した。そして、このイベントと同時に基準値緩和反対のオンライン署名（change.org）の呼びかけを行いました。

3 月 9 日には参議院議員会館で記者会見を Zoom ミーティングと YouTube ライブを併用して行いました。ここでの発表は 2 月 27 日のオンラインイベントでの発表をアップデートし、自民党プロジェクトチームの食品基準値緩和の問題点を指摘する部分にボリュームを持たせ、再度のオンライン署名も呼びかけました。

その他に、マップ集英語版ダイジェストの AmazonKindle で世界に向けて発売開始、マップ集旧版の「全国図書館寄贈プロジェクト」を実施して、約 1,000 冊を全国の図書館に寄贈しました。

【図 11】 2 月 27 日オンラインイベント



【図 12】 3 月 9 日参議院議員会館での記者会見風景



●子どもの自然体験と交流事業

令和2年度も平成28年度から継続し、山形県にある「大江町山里交流館やまさあーべ」の協力のもと、稲刈り体験を行ないました【表13】。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、4月7日に緊急事態宣言が発出され小中学校が休校となったことから、5月末に予定していた田植えキャンプは中止の判断をしました。

10月3～4日の稲刈りキャンプについては、参加者19名+スタッフ3名で実施しました。キャンプメニューでは、初日に山形県立自然博物館のガイドのもと、ブナ林トレッキングを行いました。二日目の稲刈り体験では当日、子どもたちは予定よりも早く起き、午前中の早い時間から稲刈りを始めることができました。また、参加者全員で頑張ったおかげで、昼食の時間までに稲刈りを終了することができました。人手のかかる手刈りでの稲刈りを体験したことで、仲間と力を合わせることで成し遂げることができる達成感を味わうことができたと思われます。

2月に予定していた雪遊びキャンプでは参加者募集を行いました。新型コロナウイルス感染症の再度の感染拡大から、市から不要不急の外出自粛要請もあり、参加者が集まらなかったため中止にしました。

子どもの自然体験と交流事業には、『『5』のつく日。JCBで復興支援』の寄附金を活用させていただきました。



稲刈り風景



ブナ林トレッキング体験

【表 13】 子どもの自然体験・交流事業

日にち	場所	参加人数 (スタッフ含む)	主な活動内容
5 月 30 日 ～ 31 日	山形県大江町	中止	田植え
10 月 3 日 ～ 4 日	山形県大江町	22 名	稲刈り、ブナ林トレッキング
2 月 6 日 ～ 7 日	山形県大江町	中止	雪遊び

●冊子・通信発行

◆記録誌発行事業

「10 の季節を越えて」

(3,000 部)

弊法人がこれまで継続してきた市民視点での放射能測定と、この活動に携わった関係者や利用者の記憶・経験を記録に残すことで、市民による原発事故風化を防ぐための放射能測定活動記録誌を制作しました【図 14】。

記録誌を作成するにあたり、前年度制作の「山の端の向こうから」で使用しなかった資料も活用しました。そして、記事の柱の一つにしたのが、福島第一原発事故後に生じた不安や疑問に対し、市民の視点で行った放射能測定があります。具体的な内容としては、放射性物質が洗濯物に付着するのではと母親たちが抱えた不安に対し、外干しタオルの放射能測定をはじめたことを取り上げています。日用品を測定することで、五感で感じることのできない放射性物質を可視化するという市民ならではの発想にいたった経緯を、当時相談に訪れた方にインタビューを行なうなどしてまとめました。

また、清水奈名子宇都宮大学准教授に、戦争などに代表される非常事態に対する現状認識と「記録」を主題に寄稿してもらいました。論文調ではありますが平易な文章で構成されているので読みやすく、記録誌の主題を明確にしたものなのでコンセプトがはっきりしました。記録誌に触れた方々が、インタビュー中の言葉や事例について、より理解がしやすくなったと思われます。

発行した 3,000 部のうち、まずは 300 部の配布をした状態ですが好評を得ているので、

それらの評判から幅広く配布していきたいと思います。

記録誌作成及び発送には「令和2年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業」の補助金を活用させていただきました。

【図14】「10の季節を越えて」



●講演等

令和 2 年

7 月 15 日(水) 放射線理解のための勉強会@ZOOM 主催：みんなの家@ふくしま
(阿部、佐原、清水)

●書籍・物品販売・測定器レンタル事業

書籍販売売上 52,593 円、物品販売売上 89,000 円、賃貸収入 101,450 円

測定器レンタル利用者数 1 人

●会員数

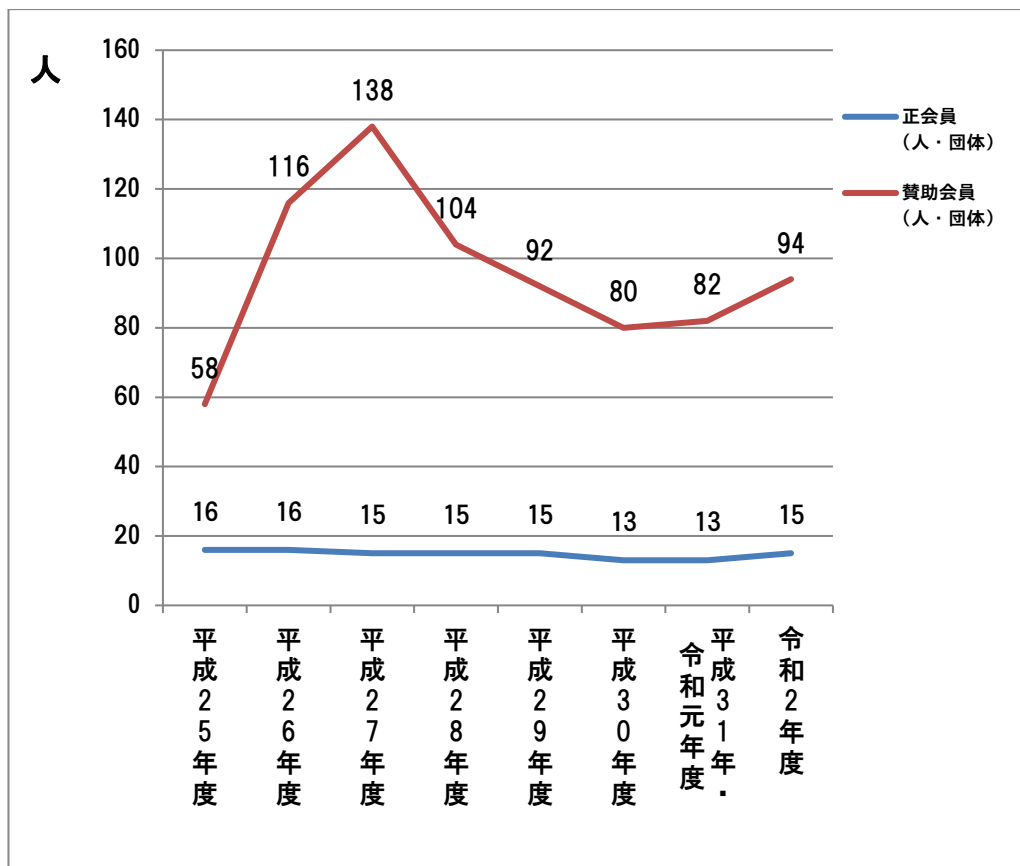
令和 2 年度末の時点で正会員は 15 名となり、賛助会員も 94 名とそれぞれ増加となりました【表 15・同グラフ】。

賛助会員についての増加は、令和元年度に発行した記録誌「山の端の向こうから」を配布した方々からの入会が多くあり、目に見えるかたちで弊法人の動きを表せたことが大きかったと思われます。

【表 15】 会員数推移

	正会員 (人・団体)	賛助会員 (人・団体)
平成 25 年度	16	58
平成 26 年度	16	116
平成 27 年度	15	138
平成 28 年度	15	104
平成 29 年度	15	92
平成 30 年度	13	80
平成 31 年・ 令和元年度	13	82
令和 2 年度	15	94

【同グラフ】 会員数推移



●寄附

認定 NPO 法人の認定基準のうち「絶対値基準」の要件をクリアするため、新たに「絶対値基準」を満たす 3 千円超の金額を継続的に寄附するサポーター枠を新設することとしましたが、令和元年度と同じく、サイトにページを作成する作業が滞っています。それにともない、告知展開もできませんでした。

しかし、令和 3 年 3 月にゲルマニウム半導体検出器の中古を購入するための寄附キャンペーンを行ない、のべ 52 人の方々から計 2,231,000 円の寄附をいただくことができました。これはゲルマニウム半導体検出器という、弊法人の活動の基本となる機器を購入するための寄附ということもありますが、多くの方々からの支援をいただけたことに、活動の実績を訴えていくことで、放射能測定と記録を残すことの大切さを認識していただけることの再確認ができました。

そして、またしても次年度に持ち越すこととなりましたが、サポーター枠の整備を進め、「絶対値基準」の要件をクリアできる体制を目指します。